

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【 返子市立返子中学校 】

学校教育総合プランの柱 ① 授業づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

| | | | |
|------------|---|--|--|
| 学校及び学年等の実態 | 各学年、落ち着いた学習環境のもと、ねらいを明確にし、しっかり取り組んでいる。 | 各学年、落ち着いた学習環境のもと、ねらいを明確にし、しっかり取り組んでいる。 | 各学年、落ち着いた学習環境のもと、ねらいを明確にし、しっかり取り組んでいる。 |
| 目標 | 学校教育目標のもと、確かな学力の向上、豊かな人間性の育成、健康・体力づくりの調和のとれた教育活動の推進を図る。 | 学校教育目標のもと、確かな学力の向上、豊かな人間性の育成、健康・体力づくりの調和のとれた教育活動の推進を図る。 | 学校教育目標のもと、確かな学力の向上、豊かな人間性の育成、健康・体力づくりの調和のとれた教育活動の推進を図る。 |
| 取り組み計画 | 学校図書館教育の充実と生徒の読書活動の推進。防災教育・健康教育・体力づくり・食育・環境教育・福祉教育・国際教育・キャリア教育・市民性教育の推進。情報教育(ICT)の充実。 | 学校図書館教育の充実と生徒の読書活動の推進。防災教育・健康教育・体力づくり・食育・環境教育・福祉教育・国際教育・キャリア教育・市民性教育の推進。情報教育(ICT)の充実。校内研究の推進。 | 学校図書館教育の充実と生徒の読書活動の推進。防災教育・健康教育・体力づくり・食育・環境教育・福祉教育・国際教育・キャリア教育・市民性教育の推進。情報教育(ICT)の充実。校内研究の推進。 |
| 実践内容 | 授業を学校教育の基盤として、確かな学力の向上に取り組む。意欲的に取り組み、知性を養う実践を目指す。教員の授業研究の充実を図り、授業規律を大切にする。 | 「わかる授業」を学校教育の基盤として、学びにくさの改善を図り、確かな学力の向上に取り組む。意欲的に取り組み、知性を養う実践を目指す。教員の授業研究の充実を図り、授業規律を大切にする。 | 「わかる授業」を学校教育の基盤として、学びにくさの改善を図り、確かな学力の向上に取り組む。意欲的に取り組み、知性を養う実践を目指す。教員の授業研究の充実を図り、授業規律を大切にする。 |
| 評価 | A | A | A |
| 評価の根拠 | 学校評議委員などの会議において、「わかる授業をめざした取り組みの成果が、学校全体の落ち着いた学習環境につながっている」と、評価をいただいた。また、教員の意識も高まり授業力も向上している。 | 朝学活の時間を活用し、朝読書を全学年で毎日実施した結果、学校全体で朝から学習に向けた、静寂で落ち着いた雰囲気を作ることに繋がった。また、校内研究において、わかる授業を目指し、計画に基づく指導を目指した。学びにくさの改善においては、ユニバーサル化の考えのもと、個々に応じた学習形態を考えられるようになった。その結果、前期授業評価アンケートにおいて、全ての項目で70%以上の肯定的回答を生徒から得ることができた。 | 朝学活の時間を活用し、朝読書を全学年で毎日実施した結果、学校全体で朝から学習に向けた、静寂で落ち着いた雰囲気を作ることに繋がった。また、校内研究において、わかる授業を目指し、計画に基づく指導を目指した。学びへの課題がある生徒の改善においては、ユニバーサル化の考えのもと、個々に応じた学習形態を考えられるようになった。その結果、前期授業評価アンケートにおいて、全ての項目で73%以上の肯定的回答を生徒から得ることができた。 |
| 課題 | 研修時間、研修内容が不足しており、生徒に還元できていないことがあるため、教員の自己啓発をさらに充実させたい。 | 校内研究の内容精選を行い、日々の業務とのバランスと、教職員及び生徒の現状を考慮しながら、教員一人ひとりが十分に取り組むことのできる校内研究の内容、方法を考えていくとともに、研究や研修を深め、教科会を充実させ、教員のスキルアップを図る必要がある。 | 校内研究の内容精選を行い、業務とのバランスと、教員及び生徒の現状を考慮しながら、教員一人ひとりが十分に取り組むことのできる校内研究の内容、方法を考えていくとともに、研究や研修を深め、教科会を充実させ、教員のスキルアップを図る必要がある。 |

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【 返子市立返子中学校 】

学校教育総合プランの柱 ② 集団づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

| | | | |
|------------|--|--|--|
| 学校及び学年等の実態 | 基本的な生活習慣を身につけられるような集団になってきている。問題行動については、個に応じた指導(生徒指導と支援教育)により理解が深まっている。 | 基本的な生活習慣およびルール・マナーの大切さを理解できる集団になってきている。問題行動については、個に応じた指導(生徒指導と支援教育)により理解が深まっている。 | 基本的な生活習慣およびルール・マナーの大切さを理解できる集団になってきている。個に応じた生徒指導と支援する教育が広まってきている。 |
| 目標 | お互いの違いを尊重し、認め合える集団作りを目指す。生徒を多面的に理解し地域や保護者と信頼関係を構築する。 | お互いの違いを尊重し、認め合い、協力し合える集団づくりを継続し、高め合える自主的な集団を育成する。多様な生徒の学びを支えることができるように、地域や保護者との連携を目指す。 | お互いの違いを尊重し、認め合い、協力し合える集団づくりを継続し、高めあえる自主的な集団を育成する。多様な生徒の学びを支えることができるように、保護者との連携を目指す。 |
| 取り組み計画 | 保護者等と連携した生徒の基本的な生活習慣の育成。学校からの多様な手段による情報発信と保護者・地域との密な連携。 | 学校と保護者の信頼関係に基づいた、安心して安全な学習環境の整備や情報共有に取り組む。保護者等と連携した生徒の基本的な生活習慣の育成を図る。学校からの多様な手段による情報発信と保護者・地域との密な連携を図る。学級・生徒会活動において自主的な活動を促し、支援していく。朝読書を全校で取り組むことにより、落ち着いた学習する雰囲気をもった集団を目指す。 | 学校と保護者の信頼関係を構築し、安心して安全な学習環境の整備や情報共有に取り組む。保護者と連携した生徒の基本的な生活習慣の育成を図る。学校からの多様な手段による情報発信と保護者・地域との密な連携を図る。学級・生徒会活動において自主的な活動を促し、支援していく。朝読書を全校で取り組むことにより、落ち着いた学習する雰囲気をもった集団を目指す。 |
| 実践内容 | 褒めること、認めることを探し、保護者・本人に伝えていく。生徒の多面的な理解を重ねて指導にあたった。 | 生徒を褒めること、認めることを大切に、その内容を保護者と共有する。生徒の多面的な理解を深めながら指導にあたる。生徒による企画・運営(役割と出番)の機会を与え、指導・支援していく。 | 生徒を褒めること、認めることを大切に、その内容を保護者と共有する。生徒の多面的な理解を深めながら指導にあたる。生徒による企画・運営(役割と出番)の機会を与え、指導・支援していく。 |
| 評価 | A | A | A |
| 評価の根拠 | 学校生活全体に安心感が根付き、前向きに学習に取り組むことができるようになってきている。 | 生徒会行事や学年行事において、学年協議会・常任委員会や実行委員会を中心に、生徒が主体的に取り組むことができている。また、その活動が校内の落ち着いた環境に結びつき、生徒が安心して、前向きに取り組むことができている。 | 生徒会行事や学年行事において、生徒会組織を中心に、生徒が主体的に取り組むことができている。また、その活動が校内の落ち着いた環境に結びつき、生徒が安心して、前向きに取り組むことができている。 |
| 課題 | 子どもの多様性を理解・共有しながら、保護者との密接な連携が図れるようにさらに努力し、学校への理解・協力が得られるようになっていきたい。積極的な生徒指導を柱としながら、予防的な支援を充実させていきたい。 | 地域に根ざした生徒会活動(地域清掃等)を充実させ、地域の一員としての自覚と地域連携をさらに深めて行く。また、生徒一人ひとりに、役割と活躍できる場面を多く設定し、自己有用感を向上させるように取り組みたい。 | 地域に根ざした生徒会活動(地域清掃等)を充実させ、地域の一員としての自覚と地域連携をさらに深めて行く。また、生徒一人ひとりに、役割と活躍できる場面を多く設定し、自己有用感を向上させるように取り組みたい。 |

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【 逗子市立逗子中学校 】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

| 2016年(平成28年)度 | | 2017年(平成29年)度 | | 2018年(平成30年)度 | |
|---------------|---|--|---|---------------|--|
| 学校及び学年等の実態 | 支援教育への理解が深まり、不登校の減少や学習環境の整備が整いつつある。 | 支援教育への理解が深まり、個に応じた支援により、学習環境が整えられ、不登校や不適応が減少している。 | 支援教育への理解が深まり、個に応じた支援のとりくみにより、学習環境が整えられ、不登校や不適応が減少している。 | | |
| 目標 | 支援体制の充実・学習環境や授業のユニバーサル化やインクルーシブへの取り組みを推進する。 | 支援体制の充実、学習環境や授業のユニバーサル化やインクルーシブへの取り組みを推進する。積極的な生徒指導と支援の一体化を目指すとともに、学びにくさの改善を図る。 | 支援体制の充実、学習環境や授業のユニバーサル化やインクルーシブへの取り組みを推進する。積極的な生徒指導と支援の一体化を目指すとともに、学びにくさの改善を図る。 | | |
| 取り組み計画 | 予防的な対応を心掛ける。早期の対応を行う。個に応じた指導を行う。 | 保護者との信頼関係を構築し、多面的な理解を深め、予防的な対応を心がけ、個に応じた早期の対応を行う。学校組織を標準化することを通して、校務分掌をわかりやすくしていく。 | 保護者との信頼関係を構築し、多面的な理解を深め、予防的な対応を心がけ、個に応じた早期の対応を行う。持続可能な学校を作るようにする。 | | |
| 実践内容 | 個別支援や特別支援学級での協同学習により、学習に参加することができる機会を増やした。 | 支援を要する生徒への支援体制の充実(個別の支援・指導・補足的な学習の計画等を日課表に位置づけ)を図り、学習に参加することができる機会を増やす。 | 支援を要する生徒への支援体制の充実(個別の支援・指導)を図り、学習に参加することができる機会を増やす。 | | |
| 評価 | A | A | A | | |
| 評価の根拠 | 登校の定着ができるようになったり、授業への取り組みが向上した。 | 機能する支援教育の観点から、組織的に生徒と向き合うことで、信頼関係を深め、保護者とともに考えることができた。 | 支援教育の観点から、生徒と向き合うことで、信頼関係ができ、保護者の理解を得られることが増えてきた。 | | |
| 課題 | 支援を必要としている生徒がいることを踏まえた、共通理解に基づいた支援教育の充実を図る。 | 教職員間で、「生徒指導＋支援教育」について共通理解を図り、支援計画に基づいた、支援教育の充実に取り組む。 | 教職員間で、「生徒指導＋支援教育」について共通理解を図り、支援計画に基づいた、支援教育の充実に取り組む。 | | |